

平成29年度のユネスコスクールの活動を振り返って

校庭の桜の花が咲きはじめ、春めいてきました。3月も残すところあとわずか。さて、本年度ユネスコスクールとしてESDの活動はいかがだったでしょうか。今号では、1年間を振り返ります。

ユネスコスクール全国大会

12月に「ユネスコスクール全国大会」が開かれました。九州で初めての開催地となった大牟田市は、ESD推進拠点として研究や実践に取り組み、その成果を国内外に発信し、高い評価をいただきました。



ユネスコスクール・ESDのまち 大牟田宣言

大牟田市には、市長を本部長とした「大牟田市ESD推進本部」があり各部局がESDの視点を取り入れて事業を展開しています。また、市民によるESDの推進組織として、個人や地域団体、民間団体による「大牟田市ESD推進協議会」が平成29年9月に設立され学校と行政と市民が協力し、市をあげてESDを推進しています。これらを踏まえ今年1月には、「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言も行いました。

海洋教育・世界遺産学習の推進

大牟田市教育委員会は、平成28年10月に東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの間で、海洋教育促進拠点としての連携に関する協定の締結を行い、海洋教育を推進しています。この実践について海洋教育子どもフォーラムや東京大学での発表などを行いました。また、世界文化遺産を生かした学習資料として、中学校版教材集が完成し、その資料を活用しながら学習の充実が図られています。

今年度は、大牟田市版SDGsも発表されました。来年度も大牟田のESDは、さらに充実していくことでしょう。子どもたちの未来のために、力を合わせていきましょう。

大牟田市立羽山台小学校の実践

心のふれあい伝え合い ～「さんぽ」での交流を通して～

6年生は、地域の方々やお年寄りとの関わりを通して、好ましい人間関係を学ぶことを計画し、思いやりや助け合いの心を育むことをねらいとしました。まず、介護老人保健施設「さんぽ」に行き、お年寄りに歌やリコーダーを演奏しました。そして、一緒に手遊び、折り紙、ぬり絵、あやとり、紙風船バレーをして交流しました。施設から帰る際にはお年寄りに感謝され、お互いに感動したひとときでした。

子どもたちは、お年寄りとのふれあい、直接感謝されることで自信を持つことができたようです。今回、福祉施設に行き、お年寄りとのふれあう活動を通して、他の人に対するかかわりを深め、自分たちの生活している世界を広げるとともに、思いやりの心の育成につながったと思います。



大牟田市立歴木中学校の実践

持続可能な社会の担い手としての生き方を考える

本校は、1年生では福祉体験学習、2年生では職場体験学習、3年生では保育体験学習を行っています。1年生は、グループホームふぁみりえ代表の大谷のみみ子さんに講話いただいた後、杉森高校の先生をお招きし高齢者疑似体験を行いました。高齢者の大変さを実感した生徒達は2日間、市内の介護施設で体験学習もさせていただきました。生徒は、感想として、『体験をするまでは、お年寄りの方を一から十までお世話するのだろうと思っていました。しかし、実際に施設に行くと自分でできることは自分でされていました。リハビリを頑張られている姿に感動しました。』と述べていました。

